

2-B-02

抗菌薬適正使用に向けた クリニカルパス改訂における事務員の役割

筆頭発表者：中谷 潤(なかにに じゅん)^{1,7}

共著者：金山 絵理香^{1,7}、廣瀬 藍子^{2,7}、杉井 麻耶^{2,3}、田頭 保彰^{3,4}

早稲田 悠馬^{5,6,7}、藍 真澄⁵


¹東京医科歯科大学病院 医事一課 ²薬剤部 ³感染制御部 ⁴感染症内科

⁵保険医療管理部 ⁶泌尿器科 ⁷クリニカルパス委員会

※演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません

E-mail : j-nakatani.adm@tmd.ac.jp

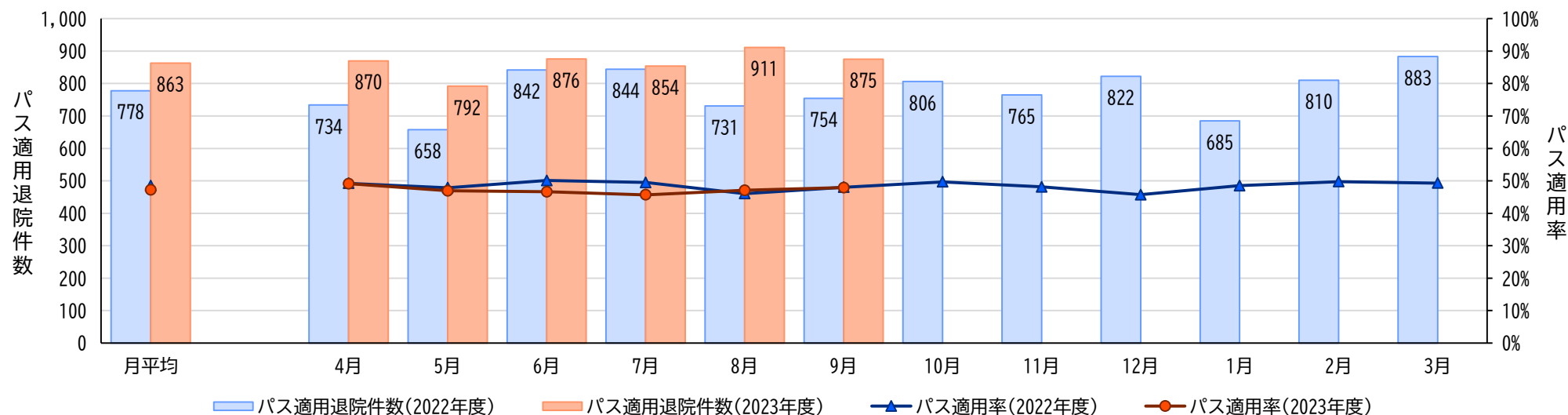
国立大学法人 東京医科歯科大学病院の概要 (2023. 10現在)

- ▶ 2024年秋に東京工業大学と統合して
東京科学大学 (仮称) に変更予定
- ▶ 医科と歯科の融合により世界最高水準の
トータル・ヘルスケアを提供
- ▶ 病床数 813床 (精神41床を含む)
- ▶ 所在地 東京都文京区湯島
(区中央部二次医療圏)
 御茶ノ水駅から徒歩3分




当院のクリニカルパス整備状況(2023. 10現在)

- ▶ 電子カルテシステム……HOPE/EGMAIN-GX(富士通)
- ▶ 運用パス……422種類(すべて電子パス)
- ▶ パス専任者……1名(事務員)
- ▶ BOM導入状況……導入済
- ▶ パス適用割合……47. 2%(2023. H1)

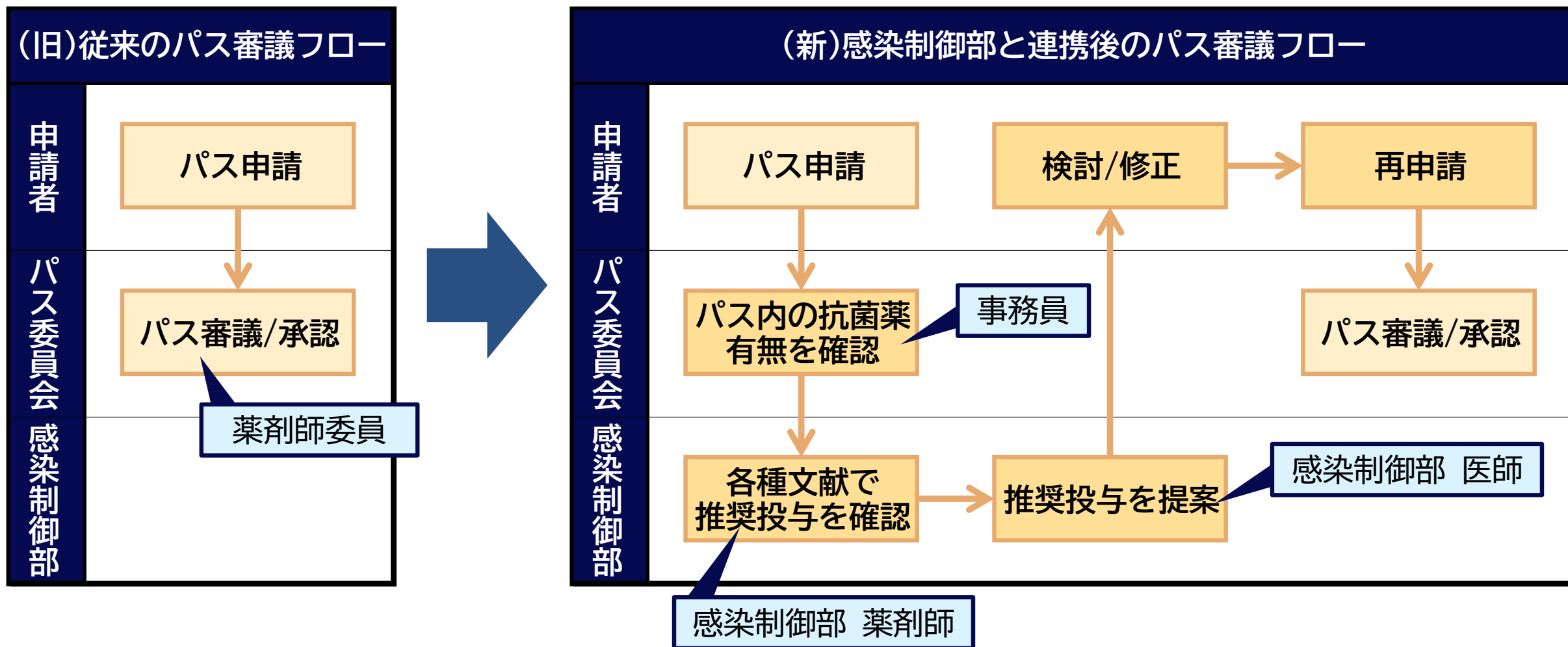


はじめに

- ▶ 2016年に術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドラインが日本化学療法学会/日本外科感染症学会によって策定
 - ▶ 当院ではガイドラインに沿ったパス整備の遅れ
 - ▶ 2022年9月に病院機能評価の受審
- 
- ▶ 2022年5月に同適正化に向けてパス改訂を行うチームが発足
 - ▶ その活動による成果をパス専任事務員として報告する

取組み内容

新旧の新規申請パス審議フロー



既存運用中パスへの対応

- ▶ 薬剤師委員が電子カルテでパスに登録された抗菌薬を検索すると
多大な時間を要した(薬剤部の端末を占有して日常業務に支障)



- ▶ そこで、**パス専任事務員**が抗菌薬有無を調査
前述の運用に準じて診療科に抗菌薬見直しを依頼

(参考)感染制御部への調査結果提供例

〇〇〇〇パス

抗菌薬名	1日	2日		3日	4日	5日	
	術前1日	術前	術中	術後	術後1日	術後2日	術後3日
セフメタゾールナトリウム静注用1g「日医工」1g		10:00-10:30		20:00-20:30	10:00-10:30 20:00-20:30	10:00-10:30 20:00-20:30	

パス + 抗菌薬の勉強会による啓発活動

- ▶ 抗菌薬適正化を啓発するための **勉強会を開催**
 - ▶ 2022年度は、3回開催(①各診療科パス担当医、②循環器内科、③整形外科)
- ▶ 【効果】 各科からパス更新の連絡あり、 **見直しの推進力**に!!



クリニカルパス担当者会議風景

クリニカルパス担当者会議 2022.06.22

抗菌薬投与期間の見直し

P-No	パス名称	版数	日数	抗菌薬名	1d	2d	3d	4d	5d	6d	7d	8d	9d	10d
****	*****	001	10	セファゾリンNa点滴静注1gバッグ「オーツカ」生食100ml付	-	術前	術中	術後	-	-	-	-	-	-
****	*****	001	10	セファゾリンNa点滴静注1gバッグ「オーツカ」生食100ml付	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

→抗菌薬投与期間の見直しを検討してはどうか

【感染制御部より】
 感染制御部では、**抗菌薬適正使用に向けた様々な取り組み**を行っています。
 クリニカルパスにおける抗菌薬適正使用にも、ぜひ**ご協力**させていただきます!

取組みの成果

運用パス数と適正化したパス数(2022年度)

1. 運用パス数	396パス
2. 抗菌薬を含む運用パス数	307パス
3. 抗菌薬を適正化 したパス数	82 パス
うち、a. 薬剤を変更したパス	48パス
b. 投与日数を短縮したパス	54パス
c. 抗菌薬を削除したパス	5パス

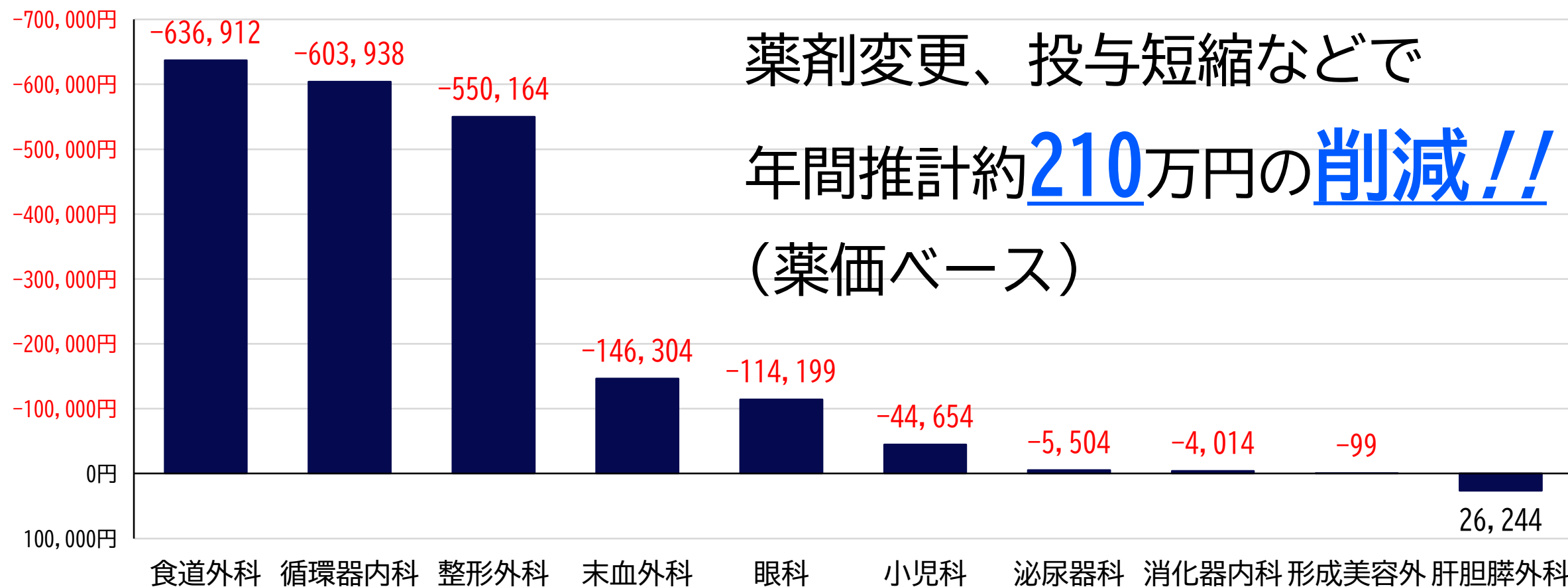
※内訳は重複を含む。



既存パスの予防的抗菌薬を適正化した一例

	抗菌薬適正化の内容と薬価(溶解液含む)	診療科	パス数
①	【化学療法パス】 シプロフロキサシン点滴 9,704円 → シプロキサン錠 858.0円(8,846円↓)	食道外科	1
②	【膝関節手術関連パス(ACL、TKAなど)】 セファゾリン 3days 6,858円 → 同薬剤 2days 5,334円(1,524円↓)	整形外科	22
③	【心臓カテーテル検査パス】 ケフラール細粒小児用 797.4円 → (削除) 0.0円(797.4円↓)	小児科	2
④	【RFAパス、TACEパス】 ワイスタール 2,904円 → セフメタゾールNa 2,580円(324円↓)	消化器内科 肝胆膵外科	1 2

診療科別の年間推計薬剤費削減効果(薬価ベース)



※年間推計値は、[変更による薬価差]×[パスの年間適用件数]で推計

さて、病院機能評価の受審結果は…

- ▶ 術後感染予防抗菌薬に関する 指摘なし
- ▶ 【結果】 2.1.10 抗菌薬を適正に使用している…… 評価[B]
 - ▶ 術後感染予防抗菌薬をパスに組み込んで、適切な抗菌薬の選択につなげていることが評価された
- ▶ 現場からパス変更による トラブル報告なし



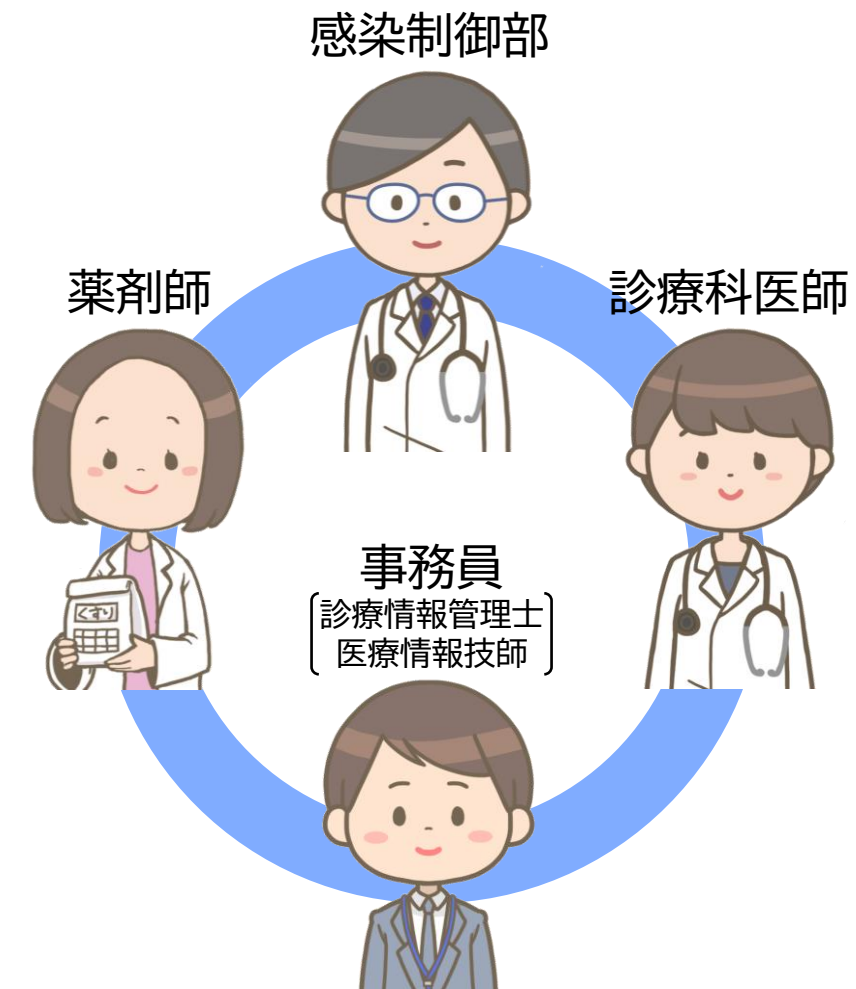
結論

取組みが成功した理由

- ▶ 術後感染予防抗菌薬適正化に
感染制御部と薬剤部、診療科だけでなく、
事務員もチーム医療に参画する
ことが重要(決して単なる記録者にとどまらない)



- ▶ 取組みの**円滑な進行・改善**に寄与



事務員として得意分野で医療チームの一員になる

- ▶ 事務員スキルを活用し、
活動報告書を作成
- ↓
- ▶ **病院長ヒアリング**で活用
- ▶ 成果を可視化することで
関係者の**士気UP**に貢献

クリニカルパス予防的抗菌薬適正化報告

2022 年度

東京医科歯科大学病院
クリニカルパス委員会
感染制御部
2023年4月

はじめに

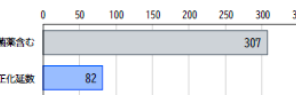
2016年に予防的抗菌薬適正化に関するガイドラインが日本化学療法学会などによって策定されたが、当院ではガイドラインに沿ったパス整備が遅れていた。
2022年9月の病院機能評価受審に向けて、2022年5月からクリニカルパス委員会と感染制御部でクリニカルパスに登録されている予防的抗菌薬適正化に取り組むことになった。2022年度の改善成果を報告する。

クリニカルパス委員会
感染制御部

クリニカルパス予防的抗菌薬適正化の概要(2022年度)

協働で予防的抗菌薬適正化を推進したことで、82パスで抗菌薬適正化が図られるなど、下記のとおり成果があった。今後も協働で推進活動を継続し、全パスの抗菌薬適正化を目指す。

- ① 運用パス数.....396パス
- ② 抗菌薬を含む運用パス数.....307パス
- ③ 抗菌薬を適正化したパス数.....82パス
 - うち、a. 薬剤を変更したパス.....48パス
 - b. 投与日数を短縮したパス.....54パス
 - c. 抗菌薬を削除したパス.....5パス
 - ※内訳は重複を含む。
- ④ 抗菌薬を適正化した診療科.....10診療科
(消化器内科、循環器内科、食道外科、末梢血管外科、肝胆脾外科、泌尿器科、眼科、形成・美容外科、整形外科、小児科)
- ⑤ 抗菌薬適正化による年間推計薬価差.....-2,079,544円
※[変更による薬価差(2023年度)]×[パスの年間適用件数]で推計
- ⑥ 抗菌薬適正化に関する勉強会の開催.....3回
(対象：パス担当者、循環器内科、整形外科)



Take-Home Message for 医師・看護師など

▶ 私たち事務員(診療情報管理士・医療情報技師)は、

パス担当者の仲間です!!

▶ ぜひ貴院の事務員にお声がけください

できれば、パス専任事務員配置の要望を!!



Take-Home Message for 事務員

▶事務員も医療チームに参画できるはたくさんあります
わからないことがあっても、教われればOK!!

▶ぜひ貴院のパス担当者にお声がけください





ご清聴ありがとうございました